

## 平成 26 年度工学系共通経費による顕彰と研究助成 成果報告書

所 属	建築学専攻
研究者(ふりがな)	奥山 信一 ( おくやま しんいち )
タイトル	21 世紀の都市デザインを構想する国際ジョイントワークショップ
助 成 名	AOTULE 加盟大学以外のアジア・オセアニアの大学との教育研究連携助成
採択金額	750,000 円
<p>背景と目的</p> <p>本プロジェクトは、本学建築学専攻と中国上海同済大学との間で、2003 年より継続して実施してきた建築および都市デザインに関するジョイントワークショップを敷衍し、実施・計画されたものである。異なる文化、風習、制度を背景としたそれぞれの地域で、いかなる建築および都市デザインをなし得るかを検討することは、グローバル化が急速に進行する現代社会における 21 世紀の都市デザインを模索する上で不可欠と言える。今回のプロジェクトでは、中国蘇州市の中心部の歴史的街区を敷地とし、その地域の再編計画を行った。敷地の隣には蘇州市の文化遺産である園林があり、多くの都市生活者や観光客が訪れる場所である。またさらに、住居が高密度に集合したエリアであり、敷地の周囲西側道路沿いでは終日マーケットが開かれ、活気のあるエリアでもある。しかし、住居の老朽化が進むなかでのスラムクリアランスの必要性和、園林や水系を観光資源として再開発する必要性にも直面している。このような都市における文化的構築物周辺地域の再編に関する都市的課題は、中国だけでなく、世界中の多くの地域で解決を迫られる、きわめて 21 世紀的な都市計画に関する普遍的な課題である。そこで、今回のワークショップでは、上記のテーマに関して、都市的スケールだけでなく建築的スケールをも含めた具体的な構想案を作成することを目的とした。</p>	
<p>本年度の成果</p> <p>平成 26 年度は、中国の 4 大学（同済大学、蘇州科技学院、東南大学、華南理工大学）と本学の計 5 大学により実施し、上記の目標に対して大きな成果が得られた。</p> <p>ワークショップは、まず 11 月初旬の約 2 週間で、中国の蘇州および上海において、敷地および関連する水郷集落の調査、設計案の作成とエスキスチェック、数回にわたるプレゼンテーションを行った。その後、各大学が 11 月のワークショップの成果について検討した後、3 月に本学に再び集まり、約 1 週間で提案内容の再検討を経た後、プレゼンテーションを実施した。</p> <p>本年度の成果は、まず、急速な発展を遂げている蘇州、上海など、中国国内の都市を視察するとともに、その発展に取り残された本課題敷地のようなエリアを同時に調査することで、中国の都市空間の実状を体験した。実際に中国で生活する学生の案内により、日本人学生だけではなかなか分からない都市の実状を掘り下げて議論し、具体的提案物として提出することで、それぞれのグループが、21 世紀において、将来的に必要とされる都市計画の問題点をつかみ取った。また、世界遺産に指定された住居群の視察を通して、地方によって全く異なる都市形成を発見するとともに、それを支える中国の歴史にも深く触れることができた。このジョイントワークショップは、建築学専攻における創造性育成科目の一つである「建築意匠設計第二」の一環として行われた。今年度は日中学生に加えて、本学に留学中の韓国、アメリカからの留学生も参加した。日本や中国をはじめとした異なる文化圏に属する学生が、一つの目標に向かって調査・ディスカッションを重ね、共同作業を行い、最終的に創作的成果物（マスタープラン図面、模型など）を作成するという本プログラムの実施によって、アジアに限定されることのない真に国際性豊かな思考力、</p>	

国際連携用

プレゼンテーション力、およびコミュニケーション能力の向上に大きく貢献するものとなったと考える。  
本ワークショップのように、複数年度にわたり継続的に実施される類似研究がみられないことから、今後  
も長く継続して実施することは、建築学専攻に留まらず、全学的見地から鑑みても、意義があるとする。

使用内訳書

費 目	内 訳	金 額
備品 1		
備品 2		
消耗品	キャノン、トナー	41,040-
旅 費	2014/11/2～11/16：奥山信一；358,680- 2014/11/2～11/16：村田 涼；358,680-	717,360-
その他		
合 計		758,400-

**記入上の注意：**

備品は、品名ごとに記入。

差額が生じた場合は、消耗品で調整。

消耗品を購入しなかった場合は、経費の差額と補填した予算科目名を合計額の内訳欄に記入。